

巻 頭 言

今年度は、コロナ感染症に振り回された 1 年となりました。また、コロナ禍にあつて、教員にも大きな変革を求められる 1 年でもありました。コロナ感染症が授業運営にもたらしたものはネガティブなものだけではなく、オンライン教育、オンデマンド教育という新しい展開への扉を開くものでした。

言語教育研究センターは、コロナ禍にあつても効率的で効果的な外国語教育の構築を目指し、外国語の授業運営と授業改善に努めております。いち早く、Zoom を取り入れたリアルタイムの授業展開やオンラインテストの実施に備えることができたのは、言語教育研究センターに所属する教員の教育に対する熱意の表れだと思います。また、言語教育研究センターは、河野学長が掲げられたプラネタリーヘルスの実現に寄与する外国語教育を目指し、新しい授業運営方法の構築を目指しております。2021 年度から年次計画ごとに進められるものについてご報告します。まず、2021 年度入学生から、後期に開設される 1 年生対象科目の「総合英語 II」においてハイブリッド授業が展開されます。対面授業と e-learning 授業が隔週で行われます。学生の集中力を維持するという目的と e-learning による学習を継続的に段階的に行うという目的を同時に達成するものです。また、2 年生対象の「総合英語 III」では、完全オンライン授業への転換を目指し、実施に向けての協議を重ねております。初習外国語は、多文化社会学部を除いて 1 年次のみ履修に変更されます。

言語教育研究センターは、センターミッションに COIL (Collaborative Online International Learning) 授業を掲げ、今後 COIL の展開を進めていく事になります。その先駆けとして、2021 年 3 月に 3 日間の COIL 集中講座を実施します。SDGs の中から貧困などにテーマを絞り、議論中心の授業が展開されます。議論の場では、学生 4 人から構成される各グループに北米の大学生がファシリテーターとして参加し、最後はグループプレゼンテーションを行う講座です。言語教育研究センター教員も今後の COIL 展開のために参加します。

言語教育研究センター教員は、新しい授業展開に積極的に参画しているだけでなく、それぞれの分野で研究を行なっております。この論集では、5 編の研究論文の他に 1 編の実践報告が収められています。研究論文は、外部審査委員を含めた審査を経て掲載されたものです。この論集に収められた論文、実践報告が外部の方への刺激、参考になれば幸いです。

2021 年 3 月

言語教育研究センター長 西原俊明